

愛媛資料ネット新聞

2024年
2月17日
土曜日

愛媛資料ネット
愛媛県松山市文京町3
愛媛大学法文学部
日本史研究室
089-927-9316
ehesu.hkaru.me
@ehime-u.ac.jp

歴史遺産継承の新しい形



▲天野真志氏講演会（大洲市）



▲立間村文書の修復・整理（愛媛大学）



▲立間村文書の救出（立間公民館）

愛媛資料ネットの活動

二〇〇一年三月の芸予地震を機に、伊予史談会と愛媛大学が設立した愛媛資料ネットは、愛媛大学法文学部日本史研究室に事務局を置き、二〇〇四年や二〇一八年の豪雨などで被災した愛媛県内の資料を救出してきました。日常的にも資料に関わる相談を受け付けています。



愛媛県の歴史資料救出図

西日本豪雨とSNS

愛媛資料ネットは、二〇一八年七月の西日本豪雨の時、雨の弱まった七月八日から大洲市内にて歴史資料の救出を開始した。大洲八幡神社古学堂や旧庄屋家などから救出した資料を西予市にある愛媛県歴史文化博物館へ搬入して、洗浄・乾燥・殺菌作業を行った。七月一日には宇和島市吉田町立間公民館から連絡が入り、浸水した立間村文書の救出作業を開始した。浸水した100箱以上の文書は伊方町岬漁協や地元の高校生、お年寄りらの支援を得て緊急避難を行った。

緊急避難の後、106箱の被災資料は愛媛大学の沿岸環境科学センターの冷凍施設「アイス」に預けられた。修復作業は愛媛大学日本史研究室で行い、香川・徳島県を含むボランティアや学生によって進められ二〇二二年三月に完了した。

西日本豪雨の資料救出にあたり、課題となったのが、救出するべき資料の所在が分からないことだった。愛媛資料ネットではこの時初めて、フェイスブックとツイッターを開設し、資料保存について呼びかけたが反応は全くなかった。開設したSNSが浸透するのは時間がかかるため、来るべき大災害に備え、未指定文化財所在地確認のためにSNS開設は急務である。

翌二〇一九年には、SNSへの反応が見え始める。資料修復ボランティア募集に応募してくれる方が現れ、県内はもとよりスペインから参加してくれた親子もいた。二〇二〇年三月には、ホームページも開設した。

二〇二〇年四月七日に、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が出された影響で、外出を控え、家の整理整頓を始める人が多かった。家庭に眠る歴史資料が捨てられることが予想され、埃をかぶった歴史資料の重要性を訴える「それ、捨てないで」シリーズをツイッターで連載した。その結果、通常の三〇倍のアクセスがあり、毎日新聞・愛媛新聞で紹介され、毎日新聞のネット記事は、五月二六日にヤフーニュースのアクセスランキングで二位となった（一位はコロナ感染者数）。

五月末には全国から問い合わせが殺到し、他県情報は該当する資料ネットへ情報提供を行い、県内の古文書・棟などは、緊急に救出・保存した。

持ち帰った棟は、愛媛資料ネットが講師を務める愛媛大学ミュージアムの博物館実習で解体を行い、下貼文書を救出し、ミュージアムで展示した。

SNSの展開

二〇二〇年四月七日に、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が出された影響で、外出を控え、家の整理整頓を始める人が多かった。家庭に眠る歴史資料が捨てられることが予想され、埃をかぶった歴史資料の重要性を訴える「それ、捨てないで」シリーズをツイッターで連載した。その結果、通常の三〇倍のアクセスがあり、毎日新聞・愛媛新聞で紹介され、毎日新聞のネット記事は、五月二六日にヤフーニュースのアクセスランキングで二位となった（一位はコロナ感染者数）。

五月末には全国から問い合わせが殺到し、他県情報は該当する資料ネットへ情報提供を行い、県内の古文書・棟などは、緊急に救出・保存した。

持ち帰った棟は、愛媛資料ネットが講師を務める愛媛大学ミュージアムの博物館実習で解体を行い、下貼文書を救出し、ミュージアムで展示した。



▼国史跡丸亀城跡



▲私塾古学堂
右側が図書館、左側が教室

クラウド・ファンディング活用

大洲八幡神社にある「古学堂」は、享保年間から明治初期にわたり、大洲藩内外のあらゆる人々の教育に尽くした私塾で、シーボルトの弟子三瀬諸淵・五稜郭設計者武田成章・書家三輪田米山・王政復古に関わった天野玄道らを輩出した。

図書館部分のみが大洲市指定史跡に指定されているが、教室部分は指定当時、住居であつたため、指定からはずれた。このため、古学堂全体が公的支援を受けられない。

西日本豪雨により、一階屋根近くまで浸水し、壁、建物など壊滅的な被害を受けた。被災直後に文庫の書籍は、愛媛資料ネットや愛媛県歴史文化博物館によって救出・修復作業を行った。しかし、建造物の修復は着手できず、ようやく二〇二二年六月から始まったが、莫大な修復費捻出が課題であつた。

修復に向け、大洲史談会を中心とした大洲古学堂保存会が立ち上げられ、クラウド・ファンディングで修復費用の募集が行われた。インターネットで発信を行い、各メディアや市内各所団体での講演で古学堂の危機を訴え、県内外に協力が呼びかけられ、愛媛資料ネットも協力した。全国の方々から支援や助成を得られ、現在も古学堂の内部調査や修復が進んでいる。

西日本豪雨後、崩落した丸亀城二の丸石垣は現状記録をとりながらの崩落石垣の撤去と埋蔵文化財調査を並行して行いながら、工事を行っているため、いまだ積み直しに至っていない。調査では、崩落石垣の下から大坂城石垣並みの高石垣が出現するなど、新たな研究成果が生まれている。建造物の復興がいかに困難か。江戸時代の築城技術がいかに高いか驚きをもって、見る事ができる。

丸亀城は、国指定史跡のため、国・県の財政支援を受け、丸亀市が修復を行っているが、完全に崩落した石垣の修復は、長期にわたり、市の財政規模を超える多額の費用負担が見込まれている。このため、広く寄付を募集し、二〇二四年一月末現在で、個人や企業から五億六千万円以上の寄付金が集まっている。

次世代への継承に向けて

愛媛県教育委員会文化財保護課では、全国でも珍しい、県・市町・資料ネット・建築士会で連携する文化財ネットワークを構想し、二〇一九年三月にマニュアル作成、二〇二二年二月の愛媛県文化財保存活用大綱にも掲載、同年九月には「えひめ文化財等防災ネットワーク」規約も完成し、西日本豪雨災害で得た教訓も活かしながら、オール愛媛体制で未指定を含む文化財保護に取り組んでいる。今後の課題は、各市町が定める文化財保存活用地域計画策定である。今年度の研修は、大洲八幡神社で行い、古学堂も見学した。

また、古学堂の歴史や古来の伝統を学ぶための講座やワークショップ等のイベントも行われており、次世代への継承に向けて活動している。本年一月には、国立歴史民俗博物館天野真志氏の講演会を実施した。

【連携・一体化の取組イメージ】
えひめ文化財防災ネットワーク構築

行政機関
県教育委員会
知事部局
市町教育委員会
市町首長部局

文化財所有者
文化的な文化財
動物的な文化財
不動産的な文化財
愛媛資料ネット
愛媛県建築士会
その他関係機関など

関係機関
愛媛資料ネット
愛媛県建築士会
その他関係機関など

平常時
定期ミーティング
合同災害対応訓練
レスキュー実務研修

非常時
被災文化財の情報収集
被災文化財の救出と応急措置
被災文化財の一時的保管

対応マニュアル作成
災害対応訓練
文化財関係者によるサミット

専門的な指導・助言
文化財調査 など

愛媛資料ネット
愛媛県建築士会
その他関係機関など

愛媛資料ネット
ホームページ
https://net.ehime-u.ac.jp/
https://www.facebook.com/ehime.siyounet/
ehime.siyounet/
X(ツイッター)
https://twitter.com/ehime_s_n

（制作）胡光